



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第33号

2021年11月15日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

西部中学校での服部SP

11月15日、北部中学校での活動と並行して西部中学校でもSP活動をスタートさせた服部SPに会いに行きました。4年生のSPさんで、年度当初より「他の学校の様子も見てみたいです。いろいろな授業を見て勉強をしたいです。」と話してくれていました。教員採用試験を終え、満を持しての複数校での活動の開始です。

初めての学校で活動をするとなると、ほとんどのSPさんは初め、教室の後ろで見学をします。服部SPも教室の後ろにいましたが、様子を見てるとすぐに教室の中を歩いて、生徒の様子を見ていました。すぐに動くことのできる服部SP、さすがです。初回は動くことにとっても勇気がいるはずですが、でも、北部中学校での経験を経て、教育実習を経て、そして服部SPの元から持っている能力の高さで、教室を広く見ることができていました。そして、たくさんメモを取っていました。「何を見ているのだろう。何を書いているのだろう。」と気になって、服部SPに声をかけました。「授業の流れを見えています。それから、生徒が何を書いているのか、解答を見えています。それを見て、こんな考え方をするのか、とか、こういう風に捉えるのか、とメモしています。」こんな風に授業を見ることが出来ているのかと驚きました。授業者にばかり目が行ってしまいがちですが、生徒の方に目を向けることが出来ていることに、彼のセンスを感じます。勉強量を感じます。彼はどこで学んだのだろう？と思いました。（ぜひ聞いてみたい！）

現場に出ると、他の先生の授業を見る機会はほとんどなくなります。だからこそ、SP活動でぜひ、いろいろな先生方の授業を見てもらえたらと思います。そして、授業を“見る”時に、何を意識して見るのか、考えながら見ると良いと思います。授業の見方が最初は分からないかもしれません。授業を何度もして、経験しなければ見えてこない視点もあると思います。でも、ぜひこの「他の先生の授業を見るたくさんの機会」を有効に使ってもらえたらと思います。大学で学ぶ、講演会や研修会に参加するなどの方法もありますが、一番手近なのは本を読むことかもしれません。大学でも「本をたくさん読む」ことを勧められると思います。学生時代にたくさんの本に出会い視点を増やすこと、そして、「本を選ぶ力」をつけておくと、教職に就いた時に必ず役立つはずですが。

服部SPはICT教育にも大変興味を持っていると話していました。この日、授業の冒頭で自己紹介をしたと聞きましたが、その時に自身のタブレットを使用して写真を見せたと話してくれました。自分のタブレットを持参?!すごいです。自己紹介の機会があることを知っていたのかどうかは分かりませんが、持っていたことがすごい。準備していたことがすごい。今日の服部SPの活動も驚きの連続でした。複数校での活動、大変だと思いますがその分たくさんの学びがあると思います。残り約半年、体調に気をつけて頑張ってください。

